

# 新潟市在宅医療・介護連携推進協議会

## (平成29年度第二回全体会) 議事録

### ■ 日 時

平成30年3月23日(金) 19:00から20:30

### ■ 場 所

新潟市総合保健医療センター 2階 講堂

### ■ 次第

#### 1 開会

#### 2 あいさつ

#### 3 議題

(1) 在宅医療・介護連携推進事業(H27~H29)実績報告

(2) 平成29年度新潟市在宅医療・介護連携推進協議会活動報告

(3) 平成30年度新潟市在宅医療・介護連携推進協議会について

(4) その他

#### 4 閉会

---

【質疑応答】○委員、オブザーバーの発言 ●事務局の回答

(1) 在宅医療・介護連携推進事業(H27~H29)実績報告

質疑・意見なし

(2) 平成29年度新潟市在宅医療・介護連携推進協議会活動報告

○市民の理解を深める分科会としては4回行い、非常に活発な議論をいただいた。2回目にグループワークを行い、その際に在宅医療の対象者やその人が抱えている生活課題を検討する中で、非常に多岐に渡る部分ということを改めてメンバー間で認識し、今後進めていく中でさらなる広がりが求められてくるといえるかと思う。先ほども説明があり、今後の課題にもつながるが、今まで市民啓発のための「おきがる座談会」は非常に効果的ではあるかと思う。今後、在宅医療・介護の連携推進を一般化する、

普遍化していく、ごく当たり前のこととしていく必要がある。こちらから積極的に出向いていき働きかけるような仕組みの一つとして、例えば事業所にそういった部分も積極的に活用しなければならないのかということと合わせて、例えば一般化・普遍化する中で在宅医療・介護の連携が、必要とする人だけではなく家族に対しても、家族の将来と現在も意識し、広く見ていくために小中学生、低学年の方にも働きかけていく、こういった部分も必要だということが今後の課題として出てきた。今、一つとして新潟市の全区でステーションと在宅医療・介護が進んでいるが、地域の実情に合わせて様々な社会資源であったり関係機関であったり、その中では資料2-3のように市民の理解を深める取組というところで色々な関係団体があるが、このネットワークをさらに強化していく、あるいは地域の実情に応じた新たな社会資源も活用しながら、より一般化し地域の方に理解してもらえるような働きかけ、これらも議論の中に上がってきたものである。4回の分科会を行う中で、先ほど上がってきたような課題につながっていった非常に効果的な分科会であった。

- 医療と介護の理解を深める分科会では、専門職のアンケートの結果を解析することをかなり深く行った。連携ハンドブックをどんな形でやっていくかということにも非常に時間を割いている。

#### <市民の理解を深める分科会についての質疑応答>

- 今後、テーマの一つとして全世代の市民に対する啓発事業が大事になってくる。3回、4回目の分科会では議論になっていた。クロス集計から世代の分析や家族がどう思っているか議論したと思っているが、いかがだろうか。
- 一例として分科会に提示したが、家族の構成や医療・介護の資源で差があることを一部紹介したが、まだその内容については深掘りしていかなければいけないと考えている。そのあたりについては、センターやステーションと連携しながら分析したいと思う。
- 解析は難しい。高齢者が在宅医療を望むかどうかについてはだいたい答えは同じで、「望んでいるが家族に迷惑がかかるため施設のほうに」、小中学生あるいは高校・大学生は自分の家に介護を必要としている人がいるかないかで変わってくる。全世代に対する啓発は解析してから啓発しないと難しいような気がする。

#### <医療と介護の連携を深める分科会についての質疑応答>

- テーマとして、連携ハンドブックについて話題の中心になっていたと聞いている。当初は先進県に倣いガイドブックを作る話があったが、使いにくいということでハンドブックということになったとのことだが、いかがだろうか。
- 先ほど話をしたが、在宅医療・介護を推進していくためには一般市民にとっては当たり前というように普遍化・一般化していくのと合わせて、より適正なものであるとい

う意味では効果性や実効性が高いという取組みでなければならないということで、連携ハンドブックの意義が非常に大きいのではないかと感じている。

- ハンドブックを作り、うまく利用できればお互い医療・介護の中の壁というものが少し低くなるツールとしては良いかと思っている。作る際に言っていたが、何のために作るのか目的のところをよりはっきり、今回分かりやすく書いていただけたと思っている。目的をもとに使っていただけると一番良いかと思う。目的を読んでいただくと分かるかと思うが、関係者が連携の目的を共有して互いの業務や専門性を理解することで、より連携を強化・信頼を深めて市民が安心な生活を送ることが目的として作っているので、市民に向けての生活が安心できるために利用されることが非常に大事だと思っている。先ほどの報告の中で（ア）～（ク）で事業報告があり、各分科会の事業報告があったが、それぞれ課題に対して「こんなことやってきた」は非常に重要だと思うが、それに対してどうクリアしていくのかが非常に大事。何のために（ア）～（ク）をやっているのかという最終的な目的・目標みたいなところをある程度はっきりさせておかないと各ステーションや各事業所というところに落とし込んだ時に目的がずれてしまうと話がズレてきてしまったり、やる意味を感じなければやりにくくなってしまったりということもあるので、新潟市としてはもう少し事業を項目として出すだけではなく「何のためにやっているのか」をきちんと伝えていかないとどんどんズレてくると思うので、目的をしっかりと伝えるようなツールとして何か出していただければと思う。
- 活用してもらえそうなものになるということが大事だと思うので、パンフレットや冊子はできたが、ただ積んであるだけでは役に立たない。きちんと現場で活用されるように。そして、連携が上手くいくように使えるものになるといいと思っているので、その部分で協力させていただけることがあればと思っている。

### （3）平成30年度新潟市在宅医療・介護連携推進協議会について

- 連携ハンドブックの活用状況を決めるということで、様々な研修会で説明という話があったが、病院の中の勉強会とかに入っていくということはいかがだろうか。
- 貴重なご意見をいただいた。病院の医師・看護師・病院のスタッフの方へ在宅医療への理解を深めることもこれまでの分科会でご意見をいただいていたので、そのあたりもセンターが実施している地域医療連携強化事業とか既存の事業の取り組みの中で十分に検討していきたいと思う。
- 来年度4月からの診療報酬改定で退院支援が入退院支援という形になり、病院の先生方にも診療報酬改定・介護報酬改定で関係が出てくるが、何かご質問はあるだろうか。ハンドブックは今、案となっているが正式には4月1日から始まるのか。
- そこを目標にしているが、少し遅れそうで、4月中にホームページ等で公開したいと考えている。

- ホームページも大事だが、冊子として配布することも大事と思うが。
- 研修会にセンター・ステーション・市の方で伺って説明させていただくことを前提に、その場で持参して配布したいと思っている。
- 病院での活用事例もあったので、病院でうまく使っていけると、より病院からの患者さんからの入退院の問題が今後大きくなってくると思うので、そこでうまく活用できるのではないかと実際には検討していた。分科会のスケジュールを立てていただいたが、第1回が8月になっていてこの4か月間が空いているが、この4か月間はどのような予定だろうか。スケジュールを8月から出してきているところで、少し遅いと思っているが、だいたいスケジュールは第1回立てようと思っているので8月に開催されるかと思っても遅れることが必須なので、もう少し早めに予定を立て、最終的に遅れてしまったらそれは仕方がないと思う。もう少し事前に考えていくということができないのかと思う。
- 先ほど説明したとおり、啓発事業については既存の取り組みを見直し、小中学校・高校向けの実際の活動というのは4月を待たずに早々に準備を進めていきたいと思っている。ハンドブックも完成をしなければいけないところであるので、活動を早々に進めていく中で事前に分科会という形ではないが、メール等でご案内したいと考えている。一定の活動を蓄積していった報告を第1回にさせていただきたいと思う。8月より早く実施することが適切ということであれば検討したい。
- 1か月くらい前でも良いような気がする。
- ハンドブックはまだ案だが、次を8月にやるとその先で完成することになるのか。
- ある程度意見を集約した形での案で、ほとんどが確定している内容だとご理解いただきたい。最後に付けている診療報酬の資料については、これから改定の資料を正式なものに差し替えた上での確定としたいと思っているので、完成に向けて事務局としては、早々に動いていきたいとは思いますが明日以降、ご指摘・ご意見をお待ちしたい。
- 期限を区切って皆さんの意見をいただいた方がまとめやすいと思う。
- 診療報酬改定も中身は分かっていると思うので、ぜひ入れていただき早めに内容を読んで、よくご存じの皆さんもいるとは思いますが、「ここが足りないのではないか」とかその都度事務局の方にご連絡いただければと思う。
- 30年度の予定に小中学校・高校を対象に介護・医療セミナー（未定）と書いてあるが、学校行事はほとんど年度単位でスケジュールが決められるため、これから校長会等で説明されても実際の実施は31年度になると理解してよいのか。
- 校長会も時期が決まっており、校長会で説明させていただけるかを確認していきたいと思うが、既に教育委員会からも校長会でいったん説明をし、それプラス各地域の地域教育コーディネーターや関係者の方、校長に直接営業をかけたらどうかとご意見をいただいているので、31年度ではなく今年度からチャンスをうかがっていこうと思っている。

- モデル的にやってみて波及させていくという意見もあったが、含めて検討お願いしたい。
- 再来年度に広めていくということもあると思う。
- 来年の予定の中で、センター・ステーション会議というものが月1回。計12回ということで予定されているが、ステーションが人員的に増えているわけではない中でステーションの業務がかなり多くなってきているのではないかと懸念している。会議を多くしすぎても負担感が増してしまうのではないかと懸念している。でも検討してもらいたいと思う。ステーション自体がネットワークの事務担当者も兼ねたりしているので、事務担当者会議も年4回行われ、かつセンター・ステーション会議も12回となりますとかなりハードになると思うので検討いただければと思う。
- これも大事な指摘だと思う。
- 検討していく。
- 大変だと思うがサイボウズを使ったネット会議ができないのか。必ず毎月1回水曜日にやっているのでもう少しテレビ会議あるいはネット会議を利用して負担がかからない形でやれたらと思う。
- 新潟市の地域医療に係る会議体系図は今日初めて見せていただいたが、在宅医療は協議会が全部になっているような図になっているが、実際に神経難病や小児の在宅とかは全く書かれていない。実際にその辺はどうなっているのか。
- 市の医療計画の中で実際に難病対策協議会や医療的ケア児のこと等は書かれていなかったとは思いますが、書かれているのであればそれらも入ってくると思う。
- 今ほどご指摘のあった例えば難病だと難病対策地域協議会というものを開いており、課を超えた協議会的なものは今現在いくつかあり、医療的ケア児に関しても来年度から協議の場を作らなければいけないということで準備をしておき、新たに作るのかこういう場面を利用させていただき意見をいただくのかは障がい福祉課と検討し考えている。決まり次第皆様に報告したいと思う。
- どこの会議も同じだが認知症と在宅医療に分けられているし、予防に関しても認知症の予防という分けられたりしているのでも、横のつながり、横断的な連携がきちりできるように体制を作っていけると良いと思う。

#### (4) その他

質疑・意見なし